

音声訳を考える

ページを読む場合の注意点 その2

前回、デージーでは目次で読む項目のページと実際に本文で読むときに、そのページで読まないときは注意する必要があると書きました。

しかし、テープ図書ではこれまでの読み方で良いわけですから、テープ図書の段階で、デージー用に読み替えるのは問題があるでしょう。テープを利用する人には原本のページが紹介されているべきです。デージー図書ではページ検索が簡単にできることから、ページを読み込むときには、検索をしたときに矛盾を起こさないように注意する必要があります。デージー図書用にページを変える必要があるようなものはデージー図書凡例で、例えば「コラムのページは原本ページではなく、デージー図書用に変えています」といったコメントも必要になってくるでしょう。ものによっては、第1部と第2部で別々にページが振っており、索引も付いているようなものもあります。デージー図書では本当に困るものです。しかし、工夫すればこれも改善できます。それぞれの状況で工夫してみましよう。

先の例では、第1部が400ページまであり、第2部が1ページから始まっていました。すべて第2部以降の項目のページは500をプラスして読み、索引のページも500プラスして読むことで処理しました。

これまで、テープでは原本のページの検索は事実上できないので、無視していきましたが、デージーではどうしても矛盾の起こらないようにページ付けをしないと編集ができませんので大変です。

こうした例はあまりないと思いますが、本文の始まるページの前にアラビア数字などが付いているケースはよくあります。本文の始まるページが1ページからだ、アラビア数字で始まる項目のページをそのまま読むと混乱します。デージー上では1ページの前は0ページしかありませんので、どう読むかを工夫する必要があります。本によってさまざまな工夫がいるでしょう。

つづく

第4回

校正のチェックポイント

(6) 図表などのあるものを校正する時

録音図書では図表なども含めて原本の内容をすべて伝えられるように音声訳するのが原則です。

校正をする場合には是非一度は原本を見ないで利用者と同じ立場できいてみて下さい。原本の図を見てその通りに説明しているように思えても、前後の本文と矛盾していたりしてわかりにくくなっていることがあります。その辺を念頭においてきいてみて下さい。図や表などは多くの場合、本文を補足するものです。図を見なければ本文が理解できないような時には、早めにポイントを説明しておく必要があります。

又、大きな表や細かい図でも本文中のその箇所と関係があるのはごく一部だという場合もあります。このような場合に図や表についての説明が長々と続いてしまうと、本文がどこかへいってしまっ、全体の理解を妨げることになってしまいます。図表などを含めて原本の内容をすべて伝えると言っても図表などのすべてを細かく説明しては全体として理解しにくいものになってしまいます。

①まず、本文をよく読んで本文に書かれていることは絶対に伝える。その為に図表などの説明が必要であればポイントをつかんで出来るだけ短い説明を適切なところに挿入する。又、②本文だけで内容はきちんと書かれているが図表などを見ればよりよくわかるという時には区切りのいい所で図表の説明を入れる。①の場合と②の場合では例え同じ図でも説明の仕方は違ってくるはずで。

この辺のチェックは図表を見ながらきいたのではむずかしいのです。

○どうしてわかりにくいのか

私たち録音図書作りに携わっている者は録音図書をきく時にどうしても原本にどう書かれているのかと思いながらきいてしまいます。例えば原本の表が縦なのか横なのかとか、今のところは原本では()なのか、それとも音声訳者の補足なのかとか。正しく音声訳されていればそんなことはどうでもいいことです。利用者は原本がどうなっているのかではなく書かれている内容をきいて理解するだけです。

校正をする場合には本当に利用者の立場に立つことができなければなりません。その上でわかりにくければどこに間違いがあるのかを考えます。きいている時はわからなかったけど本をみてわかったというのでは何にもなりません。

○図表などのすべてを細かく説明しても本文を含めて内容が伝わらなければ駄目です。

具体的にはどのような説明がいいのでしょうか。

図も表も一つ一つ違いますし、又、同じものでも本文の中での役割は様々ですから、図表などの説明について模範解答はありません。ここでは内容を伝えやすい説明のポイントを少し考えてみたいと思います。

★はじめに全体の説明をする。これは例えば

「一日の気温変化を示した折れ線グラフです」とか、「〇〇村の地図があります」とか全体を大まかに説明します。

いきなり細かい説明にはいと理解しにくいものです。

★同じ図について本文中に何度も関係のある記述がある時には、はじめに断ってその都度、図表の情報を読み込むという方法もあります。

★上下とか左右など見た目の上での位置関係は必要でないことも多いです。内容を理解して適切な言葉に置き換えて説明します。

★大きな表を読まなければならない時には項目の数を予めコメントし項目ごとに番号を付けます。どこまでつづくのかわからないのは不安なものです。

★表を読む時に項目を一々読むのかというのは大きな問題です。番号、記号でおきかえる方法もありますが、それで本当にわかるのかチェックしておく必要があります。

省略する時のコメントについては次回に書きます。

つづく

漢字の理解

盲人情報文化センターの点字校正職員、小原二三夫さんが自分のホームページで発表している話をダウンロードしてシリーズで紹介します。点訳にかぎらず音声訳をする上でも大いに参考になると思います。

直接、ホームページを見たい方の人の為に、アドレスも紹介します。

[http : www. 5c. biglobe/ ne. jp/ 0bara/](http://www.5c.biglobe/ne.jp/0bara/)

今回は、私が漢字を如何にしてそれなりに理解するようになったかについて書きます。

以下、点字で表現しなければならない部分は、[] 内に片仮名で書くことにします。また点字のマス空けは全角スペースで示します。

皆さんご承知のように、日本の点字は表音文字で、平仮名、片仮名、漢字の区別はまったくありません。すなわち、普通の文字（以下通称にしたがって「墨字」と言う）と点字とのあいだには、単純な1対1の対応関係は成り立ちません。（たとえば、墨字の「意、異、胃、医、亥、い、イ」などは、点字ではいずれも「イ」となります。）

普通の漢字仮名交じり文を、ただ1種の表音文字しかない点字に置き換えると、おのずとそのプラス面とマイナス面が出てきます。

プラス面としては、まず第一に、正しく点訳（普通の墨字文書を点字に直すこと）されていさえすれば、たとえば古典や宗教書など、どんなに難しい文章でも、とにかくすらすら読むことはできるということです。私は小学4年生の時まちがえて『源氏物語』を〈読んで〉しまいましたし、高校の時は漢方の教科書も読みました。読む速さだけなら、点字に熟達した人なら、目で読むのと同じくらい、あるいはそれを上回る速さで読むことができます。

表音文字である点字の読み・書きの速さは素晴らしいものです（英語、ドイツ語、フランス語などでは、点字の読み書きの効率を上げるため、略字が広く使われています）。

マイナス面としては、たとえばいって難しくない文章でも、たまに意味を取り違えたり、正確に意味を読み取れないことがある、ということです。

これはなにも漢字の問題に限ったことではありません。平仮名と片仮名の区別が付かないために意味が不鮮明になることもあります。たとえば〔ヘレント アレントノ キョーチョ〕という点字文は、「ヘレンとアレンとの共著」とも「ヘレンとアレントの共著」とも読むことができます。

さらに漢字が入ってくると、問題はもっと複雑になります。漢字あるいは漢字から成る熟語（いわゆる漢語）には、しばしば同音で異なる意味のものが数多くあります。（第一水準漢字の表で〔コー〕の所には80の漢字が収録されています。また手元にある『広辞苑』で調べると、〔コーセイ〕と発音される見出し語は、校正、厚生、構成、公正、後世など29、〔コーショー〕にいたっては48もあります。）

そんな場合でも、ふつうは前後の文脈でその文字・語の意味をある程度推量して、文全体の意味としては大略つかむことができます。（この推測能力も読書の量により増すようです。）でもときには、自分の推測能力ではどうしても意味が取れなかったり、間違った解釈にならざるをえない場合があります。

一つ例を挙げましょう。高校の終りころだったと思います。世界史の教科書の、第二次世界大戦前のヨーロッパの状況を記述した文章の中で、〔ハン ゲルマン シュギ〕〔ハン ユダヤ シュギ〕〔ハン スラブ シュギ〕〔ハン キョーサン シュギ〕といった言葉が続けて出てきました。私は、〔ハン〕は“反対”の意味だろうと思って読みましたが、そうすると、どうしてもつじつまが合いません。私のその時の思考力であれこれ考えをめぐらせても、〔ハン〕にはほかに“半分”の意味くらいしか思い浮びませんでした。

この疑問が解決されないまま数年経ち、大学に入って「汎神論」について調べることがありました。その時、はっと気が付いたのです。あの時分からなかった〔ハン〕は「汎神論」の“汎”で、「あまねく、すべて」といった意味があり、英語だと“pan-, all-”に当たる文字だったのです。（すなわち、「汎ゲルマン主義」「反ユダヤ主義」「汎スラブ主義」「半共産主義」だったのです。）本当に〈開眼〉という感じでした。そしてその時は、英語はなんと便利なんだろうとも思ったのです。（でも、私は英語はあまりできないので能率はよくありませんし、また、英語の単語を分解していった時の要素にもしばしば二つ以上の意味があって、語を構成する要素だけから語の意味を正確に推定することは無理です。）

次に、今から思い返してみるととてもお恥ずかしい経験を書きましょう。それは、私の造語能力にかかわることです。

私は小学高学年ころから日本点字図書館（郵送で点字図書を借りられる、日本で一番大きな点字図書館。[ニッテン]「日点」と略して愛称していました）の読者に登録しました。次々と本を読む一方、よくこちらの希望や問合せの手紙も書きました。その際、相手を指すのに「[ニッテンデワ] ……」とか「[ソチラデワ] ……」とか書いていましたが、それではなんとなく覚めたような、また不躰な感じがして、もっと丁寧な書き方はないものかと思っていました。図書案内など、日点からの通信文をみていると、しばしば[トーカー]「当館」という言葉が使われ、それが日点自身を指していることが分かりました。それで、それまで「[ニッテンデワ] ……」と書いていた所を、おそろおそろ「[トーカーデワ] ……」と書いてみました。（この手紙を受け取った係の方はどんなにか戸惑ったことでしょう！）でも、この書き方もなんとなくしっくりこないので、たぶん2、3回くらいで止め、その後はまた「[ニッテンデワ] ……」と書くようになりました。

それから数年して、「貴殿」とか「貴協会」と言う表現に出会い、これは相手を尊敬して使われる言葉のようだということも分かりました。それで「貴館」とか「貴会」という言い方もあるかも知れないと思い、こわこわ「[キカンデワ] ……」と書いてみました。この言葉は点字では一度もみかけたことがなかったので、とても不安でした。しばらくして「当方」に対して「貴方」という言い方があることを知り、ようやく安心して「貴館」という語を使えるようになったのです。

以上例に挙げたような問題に共通しているのは、私が漢字一字一字の意味をよく理解していなかったことです。私が（単語ではなく）個々の漢字の意味に注意するようになったのは、高校も終り近くになってからだと思います。（今日では、最初から目が見えなくても、もっと早い時期から漢字の大切さに気付くようになってはいるはずですが。盲学校用の国語教科書では小学3、4年せいの時から漢字についての丁寧な説明がありますし、また普通学校で教育を受けている盲児の場合は自然に漢字の理解が進むでしょう。）

つづく

上手な家庭録音のすすめ

本人が気づかずに入る共鳴音

共鳴するものが近くにあると、音が響いて録音され、やはりこれも聞きづらいものになります。反響音とは違い、音が響いて聞こえます。「何か共鳴するものがありますか」と尋ねても、ほとんどの方が「わからない」と言われます。しかし、よく、本人の録音状況を聞いていくと、共鳴するものが必ず見つかります。

ある人は、マイク立てのかわりに筒を使っていたり、電気スタンドの傘がお碗型に

なっていたりと、かならず共鳴するものが近くにあります。スタジオでもゼットライトの傘に共鳴しているケースもありました。その人の声の音質によっては共鳴する時と共鳴しない場合があります。珍しいケースでは、録音している機の脚が丸い金属筒になっていて、これが共鳴していたケースもありました。これは、実際にその場で確かめてわかった訳です。ほとんどの場合近くに何か共鳴するものがあるのに、音声訳

者が気が付かずに録音しているようです。こうした共鳴音などは、普通に再生しただけでは気がつきにくいので、ヘッドホンなどでちゃんと聞いておく必要があるでしょう。

共鳴音ではなく、全体的に少し音が響くようなケースがありますが、これは、ヘッドホンから、漏れた音をマイクが拾っているケースもあります。後追いつく時はヘッドホンを耳に当てているが、煩わしい

ので、それをはずして、マイクの近くにでも置いて読むと、二つの音源があることになり、微妙にひびく音になってしまいます。また、ヘッドホンの音量をあげすぎても耳から漏れた音をマイクが拾い響いて聞こえることもあります。これらのことはうっかり気が付かずに録音している場合がありますので注意しましょう。

つづく

2001年度、録音図書製作講習会のご案内

盲人情報文化センターでは、録音図書製作講習会を下記の内容で行います。

この講習会では、発声、アクセント、腹式呼吸など基礎的な訓練を終了している方を対象に、当センターで録音図書を製作する為に必要な基礎知識や技術を勉強します。

実施要項

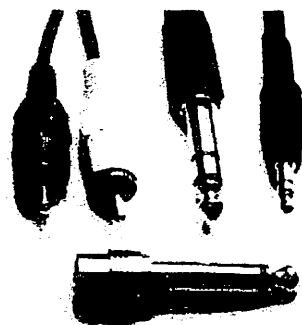
実施時期	2001年9月19日(水)～2002年10月16日(水) 毎月第1、第3水曜日 10:00～12:00(20回)
講習内容	1. 録音技術 2. 漢字、図、表などの音声変換処理 3. 録音の順序など
定員	10名程度
〆切日	2001年9月1日(土)
試験日	2001年9月12日(水) 盲人情報文化センター 9階 10時～12時
試験内容	①アナウンステスト ②漢字、音声変換処理センス ③面接 ※筆記用具持参のこと
発表	2001年9月14日(金)までに連絡
講習開始	2001年9月19日(水)
申込方法	申込用紙に記入の上、郵送(Faxも可)またはご持参ください。 社会福祉法人日本ライトハウス 盲人情報文化センター録音製作係 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-13-2 電話 06-6441-0015 Fax 06-6441-0039 ※ 問い合わせは、録音製作担当の清水まで

前号までで、パソコンほかの機材や消耗品を取り揃えることができた。ここでは編集の着手に先立って行う機材のセッティングおよび設定等について述べる。

「2. デイジー編集を始めるための準備」のつづき

2.5 機材のセッティング

カセットデッキ、ミキサー、パソコン、スピーカーはそれぞれの機器に応じたプラグを有するオーディオコードで接続しなければならない。下図は右からステレオミニプラグ、ステレオ標準プラグ、ピンプラグL-R、また、手前はピンジャックと標準プラグで構成されるプラグ変換用アダプターである。これらのプラグを受ける側がジャック（例：ステレオミニジャック等）と呼ばれる。

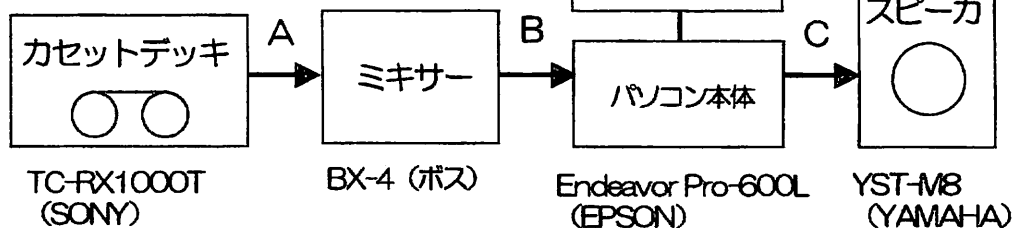


これまでに推奨例として示した下図のような構成の場合に用いるオーディオコードを紹介する。

コード A はカセットデッキ背面のライン出力端子とミキサー入力端子を接続、

コード B はミキサー出力端子とパソコン背面オーディオボード・バックパネルのライン IN 端子を接続、

コード C は同じくオーディオボード・バックパネルの



右からステレオミニプラグ、ステレオ標準プラグ、ピンプラグL-R、手前はプラグアダプター

ライン OUT 端子とスピーカの入力端子を接続する。

それぞれのオーディオコードの構成は

コード A がピンプラグL-Rと標準プラグ×2、

コード B が標準プラグ×2とステレオミニプラグ、

コード C がステレオミニプラグとステレオミニプラグである。

しかし、コード A、コード B に該当するオーディオコードは一般には市販されていないので、ミキサー側のプラグがピンプラグのものを購入し、ピンジャックと標準プラグで構成されるプラグアダプターを用いて標準プラグに変換する。また、ミキサーを用いない場合はコード A、コード B の代わりにピンプラグL-Rとステレオミニプラグで構成されるオーディオコードを用いるとよい。

カセットデッキやスピーカにはオーディオコードが付属しているので、さらにどのようなオーディオコードが必要かをよく調べ、コードの長さは1.5m、抵抗入りではないものを購入するようにしよう。

セッティングがすんだら、ディスプレイやスピーカ等の電源を入れた後、最後にパソコン本体の電源を入れるようにしよう。終了するときはこの逆である。

2. 6 パソコンの初期設定

画面のプロパティで画面の解像度、スクリーンセーバー等の諸条件を設定することができる。ただし、これらの設定はシステムを管理をする人だけが行うようにすること。共同利用者各人が勝手に設定を変更したのでは他の人にとっては非常に使い勝手の悪いパソコンになってしまう。どうしても設定を変更したいときはシステム管理者に相談すること。

(1) 画面の解像度設定

画面の解像度は内蔵するビデオボードにもよるが、640×480、800×600、960×720、1024×768、1152×864、1280×1024ピクセルの中から選択することができる。

ピクセルとはディスプレイ上で文字や画像を表示するときの最小単位（画素またはドットに相当）

で、数値が大きくなるほど画面全体の画素数が増え、画面上に表示できる領域が増える。しかし、あまり解像度を上げすぎると表示できる領域が増える代わりに、文字などが小さく表示されてしまうことになり、かえって使いにくくなる。

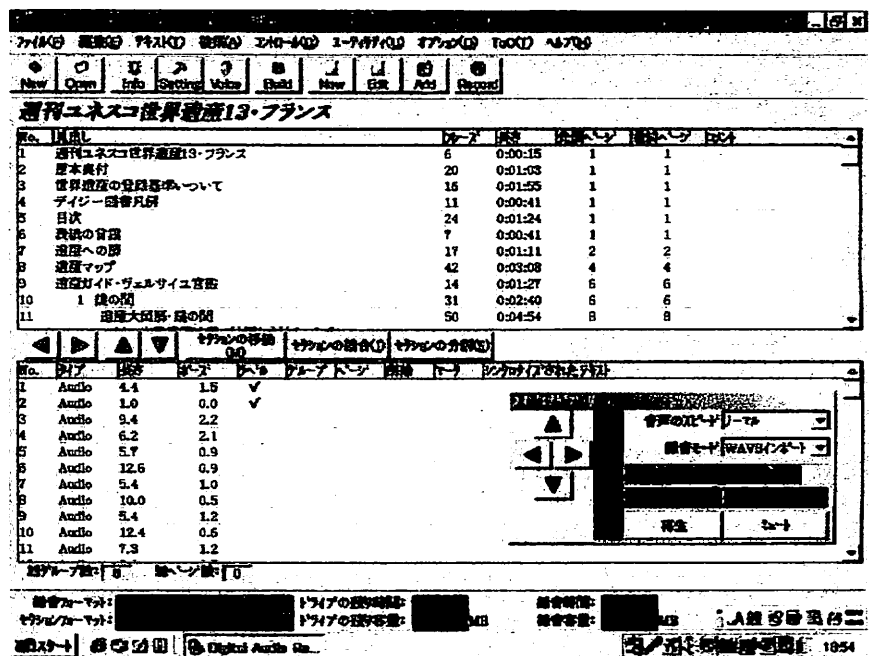
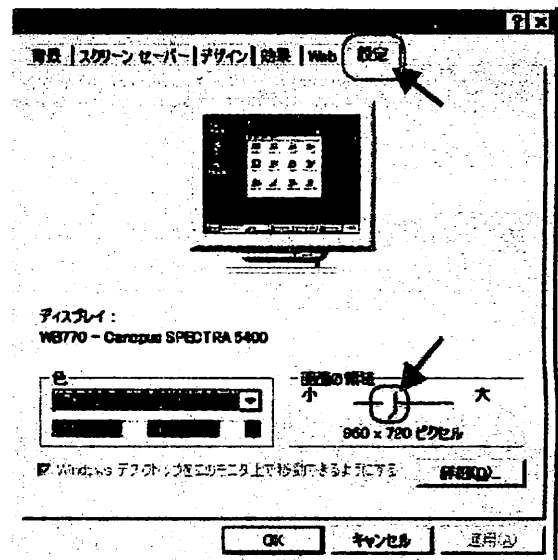
デジター編集では960×720、または1024×768ピクセルあたりが作業性がよい。

解像度の設定は以下の手順で行う。

- ① [スタート] → [設定] → [コントロールパネル] をクリック
- ② [コントロールパネル] ウィンドウが開くので、その中の [画面] アイコンをダブルクリック
- ③ [画面のプロパティ] ウィンドウが開くので、[設定] タブをクリック
- ④ [画面の領域] 欄のつまみを左右にドラッグして解像度を設定
- ⑤ 設定が完了したら [OK] ボタンをクリック

右の図は960×720ピクセルに設定し、17インチディスプレイ全面にSigtuna 編集画面を表示させた場合で、上半分のセクションリスト、下半分の

フレーズリストともに11項目が表示されている。ところが、800×600ピクセルでは表示される項目数がそれぞれ8項目になってしまい、広範囲に見ることができず作業性が悪い。



(つづく)

(テープライブラリーにしのみや 鳥生次郎)